

平成27年度第3回佐久市総合計画審議会 議事録

日 時：平成28年1月22日（金）

13：30～15：10

場 所：佐久市役所 議会棟

全員協議会室

- 【出席者】 白井会長、山本副会長、清水委員、岩間委員、桃井委員、依田委員、土屋敏子委員、油井委員、秋山委員、相馬委員、土屋厚子委員、土屋せつ子委員、佐藤千恵子委員、黒澤委員、武重委員、田島委員、岩岡委員、花岡委員、小林壽夫委員、土屋やよい委員、金澤委員、大池委員、武者委員、石山委員、篠原委員、佐藤和夫委員、小林英雄委員、上原委員 以上28名
- 【事務局】 矢野部長、佐藤課長、若林課長補佐（企画調整係長）、市村企画員、小林、大井、山口

1 開 会

2 議 事

(1) 新市建設計画の変更について

事務局から資料に基づき説明（資料1、2）

(2) 第二次佐久市総合計画の策定について

ア 第二次佐久市総合計画の構成（案）・策定の進め方について

事務局から資料に基づき説明（資料3）

質疑、意見

(委員)	第一次佐久市総合計画後期基本計画の構成に比べて、「基本構想」が大きく扱われていますが、何か理由はありますか。
(事務局)	後期基本計画の策定時には、既に10か年の「基本構想」が定められていたことから、後期基本計画では「はじめに」の中に「基本構想」を位置付けています。 今回は、新たに「基本構想」を定めることから、第一次佐久市総合計画の策定当初と同様の構成案としました。
(委員)	「計画の構成」に「分かり易い計画」、「PDCAサイクルの構築」を新たに記載することは、第二次佐久市総合計画で特に入りたいと

<p>(事務局)</p>	<p>ということだと理解をしていますが、何か理由はありますか。</p> <p>それぞれ「第二次佐久市総合計画策定方針」において「策定に当たったの基本方針」として位置付けているもので、特に重要な観点として、総合計画においても記載していきたいと考えています。</p> <p>第一次佐久市総合計画では、策定当初に盛り込むことができなかった数値目標を後期基本計画で初めて定めているので、今回の計画でも数値目標を設定して、分かり易い計画とすることを心がけていきたいと考えています。</p>
<p>(委員)</p>	<p>例えば「PDCAサイクル」という用語も、計画を策定する側では読む側が分かっていると思って使っていると思いますが、十分に理解されないこともあると思います。</p> <p>分かり易く記載することには、難しさもありますが、概ね中学生が理解できるような表現で記載することが親切なものだと思います。</p> <p>そのような表現にすると、中学生も理解して、佐久市の一員として、ここで頑張ろうという意識になると思います。</p> <p>総合計画のダイジェスト（要約版）を作成して、社会科の授業で使うようなことを目指してみても良いのではないかと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>分かり易い策定作業を心がけてまいります。</p>
<p>(委員)</p>	<p>第一次佐久市総合計画では、基本計画を10年の計画として、5年経過後に見直すものとしていますが、第二次佐久市総合計画では基本計画の計画期間を前後期5年で予定しているかと思います。</p> <p>目標の設定を平成33年度にするのか、平成38年度にするのかという違いが出るかと思いますが、何か理由はあるのでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>社会の移り変わりの速さを考えると、10年先の目標を設定することは難しいと考えています。</p> <p>このことから、まず前期基本計画の5年間の目標を定めて、目標達成を目指していくとともに、後期基本計画の策定に合わせて、目標の見直しを行いたいと考えています。</p>

イ 第二次佐久市総合計画の基本理念・将来都市像 検討資料について  
事務局から資料に基づき説明（資料４）  
質疑、意見

(委員)	「樋橋地区（都市開発）」といった資料４の「将来都市像実現のための考え方」に記載されている内容は、最終的に決定したものでですか。
(事務局)	資料４では、基本理念や将来都市像を検討するために、いくつかのキーワードを掲げています。「将来都市像実現のための考え方」は、検討のためにいくつか例示したものであって、最終的に決定したものではありません。 今後の基本理念、将来都市像の策定に合わせて、整理していきたいと考えています。
(委員)	「目指したい佐久市の方向性」の「実感したい希望」というのは分かりにくい表現ではないでしょうか
(事務局)	安らかさ、幸せといった何を実感したいのかという部分を省略して記載しているため、分かりにくい表現となっているかと思います。 全体を通じて、分かり易い表現を心がけてまいります。

ウ 第二次佐久市総合計画における将来人口について  
事務局から資料に基づき説明（資料５）  
質疑、意見

(委員)	少子化の時代に人口を増加させていくのは難しいと思います。 また、人口数だけでなく、一番の問題は高齢化による人口構成の問題にあると思います。 これから１０年で、人口が減少するとともに、高齢化がピークに達するということを踏まえて計画を策定する必要があると思います。 人口減少局面で、人口１０万人、９万７０００人を掲げるのはいかがでしょうか。
------	---

<p>(事務局)</p>	<p>委員の御意見のとおり、現実には厳しいものがあると思います。</p> <p>まず、「佐久市人口ビジョン」で定めた人口の自然増、社会増により将来展望の9万7000人を目指していくとともに、10万都市の建設という思いで合併したことを今後につなげていくためにも、「10万人」を目指していきたいと考えています。</p> <p>第一次佐久市総合計画でも、計画人口として数字を記載したが、今回も将来展望の数字、姿勢として10万人を目指していくということを計画に記載していきたいと考えています。</p>
<p>(委員)</p>	<p>これから10年で高齢化が急速に進むと思います。</p> <p>この10年間に向けてのビジョンは何かあるのでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>昨年10月に「佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定めました。</p> <p>策定に当たって行ったアンケートでは子育ての経済的な負担が大きいといったご意見もいただきました。</p> <p>このことから、新年度事業には保育料の第3子以降完全無料化、妊産婦の医療費補助等を盛り込む予定となっています。</p> <p>総合戦略については、次の機会に説明したいと考えています。</p>
<p>(委員)</p>	<p>今回の資料にある新市建設計画の財政計画(変更案)を見ると、平成27年度と平成32年度を比べて、約23%歳入が減少していますが、このような状況を踏まえて10年の計画を考えていくべきではないでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>平成27年度は、クリーンセンターや斎場といった合併特例債による整備事業がピークになることから、このような数字になっています。</p> <p>税収で見ると、平成17年度と平成32年度であまり変わらない数字となっています。</p>
<p>(委員)</p>	<p>いずれにしても、歳入が減少していくことには変わりないと思いますので、そのような状況を踏まえて、10か年の計画を策定すべきだと思います。</p>

(会長) 様々な意見が出ましたので、取り入れていただき、より良い計画としていただければと思います。

(3) その他

次回開催日程について連絡

3 閉 会